

木曽森林環境保全ふれあいセンター

これまでの取組(2005年4月～2005年6月)

【2005年4月】

・「緑の挑戦者」森づくりへ間伐作業

4月16日、NPO法人緑の挑戦者の森づくり協力事業が、木曽福島町林業振興会や役場職員、当センター職員の指導のもと木曽福島町有林で実施され、愛知や三重、東京方面から32人が参加して間伐作業に汗を流しました。

この取組は、同法人が平成16年度からスタートさせたもので、きれいで豊かな水を利用できるように、水源地の山の手入れを体験しながら育林の手助けを続けています。

現地は、40余年生のカラマツ林(面積約4ヘクタール)で、今回の参加者は初心者も多かったことから、作業上の注意事項、木の倒し方等を念入りに聞いた後、安全に注意しつつ慎重に作業を行いました。

初めて参加した人のひとは、「こんなに山奥に入ったことはないし、木を倒すのもおもしろく、いい経験になりました」と言っていました。



・城山史跡の森倶楽部がガイド養成研修会を実施

4月21日、春の行楽シーズンを前に「城山史跡の森」の案内人を養成するため、NPO城山史跡の森倶楽部主催のガイド養成研修会が木曽福島町で行われました。

研修会には、「名もない山にも文化や歴史がある」を合い言葉に、地元城山の自然や歴史に関する知識を身に付けようと集まった城山史跡の森倶楽部の会員ら16人、及び当センター職員4人の計20人が参加しました。

この日は、できあがったばかりのパンフレットを手に、春先に新設したばかりの歩道を散策しながら、城山の歴史や植物などお互いの得意分野の知識を出し合いました。

同倶楽部では、平成17年度の活動として森林・鳥類・昆虫等の観察会、下流域からの森林浴ツアー等のイベントを多数計画しており、案内人の活躍が期待されています。



【2005年5月】

・地球緑化センターのボランティア活動への協力

NPO法人地球緑化センターによる除伐作業が5月14日と15日の2日間、長野県上松町の赤沢自然休養林で実施され、当センターからも職員が参加し、除伐作業の安全等に関する指導を行いました。

また、14日の夜は囲炉裏を囲んで、木曽の森林と伊勢神宮の御杣始祭に関する話などを中心とした森林教室等を実施しました。

なお、このボランティア活動は、同法人が市民参加の森づくりを進めるため、平成8年5月から行っている「山と緑の協力隊」の一環で、中部森林管理局と「ふれあいの森」の協定を結び、作業区域を「大樹の森・赤沢」と命名して作業を行っているものです。

今回の作業は、ヒノキ林を育成するため、ヒバの除伐とヒノキの劣勢木を除・間伐するもので、おいしい空気を胸いっぱい吸って作業を行った参加者は一様に大満足の様子でした。



・未来世紀へつなぐ緑のバトン

1984年の長野県西部地震で大規模な土砂崩落のあった王滝村の災害跡地で5月28、29日、愛知、岐阜、三重の中日森友隊のメンバーの約150人を含む約350人が森林ボランティア活動を実施しました。

参加者は、森林の再生を目指して災害跡地に、昨年同村内で拾ったドングリから育てたミズナラを、当センター、木曽森林管理署、王滝村役場職員の指導のもと植栽しました。

この活動などにより震災の記憶が後生に受け継がれるとともに、水源地への関心が高まってくれることを期待したいと思います。

